

令和7年度 愛知県臨床検査精度管理調査報告 臨床化学検査部門

株式会社 グッドライフデザイン
中嶋 美里

本演題に関連して開示すべきCOIはありません

参加施設

施設 128 (昨年度126施設)

調査試料

試料11,12 : 全項目測定用プール血清

試料13,14 : HbA1c測定用全血

調査項目

グルコース	無機リン	尿酸	ALP
総ビリルビン	血清鉄	総コレステロール	CK
直接ビリルビン	マグネシウム	中性脂肪	LD
ナトリウム	総蛋白	HDL-コレステロール	γ-GT
カリウム	アルブミン	LDL-コレステロール	AMY
クロール	尿素窒素	AST	ChE
カルシウム	クレアチニン	ALT	CRP
			HbA1c

計29項目



評価基準

SDI評価 → **相対評価**

同一グループによる評価

$$\text{SDI} = (\text{施設測定値} - \text{平均値}) / \text{標準偏差}$$

A・B・C・D評価 → **絶対評価**

目標値 ± 評価幅



目標値

ウェット法

全項目 参加施設の平均値を採用

※外れ値を除去後、 $\pm 3SD$ 2回除去を実施

ドライケミストリー法

ウェット法に準ずる

(ウェット法で一括評価以外の項目に関しては、ドライケミストリー法の平均値)



評価幅

A評価

正確さの許容誤差限界 (Ba%)

個体内・個体間生理的変動幅をもとに算出した
施設間の許容誤差限界の指標

B・C・D評価

現在の技術水準から算出した施設間許容誤差限界

実際の施設間差等が加味された
達成可能な施設間差評価の目標になりうる指標



評価幅（ウェット法）

A評価

Ba%を基に設定 上限は±5%

B評価

日臨技指針における精度管理調査の
許容誤差に関する現状幅および体外診の
性能確認幅に準じて設定

C評価

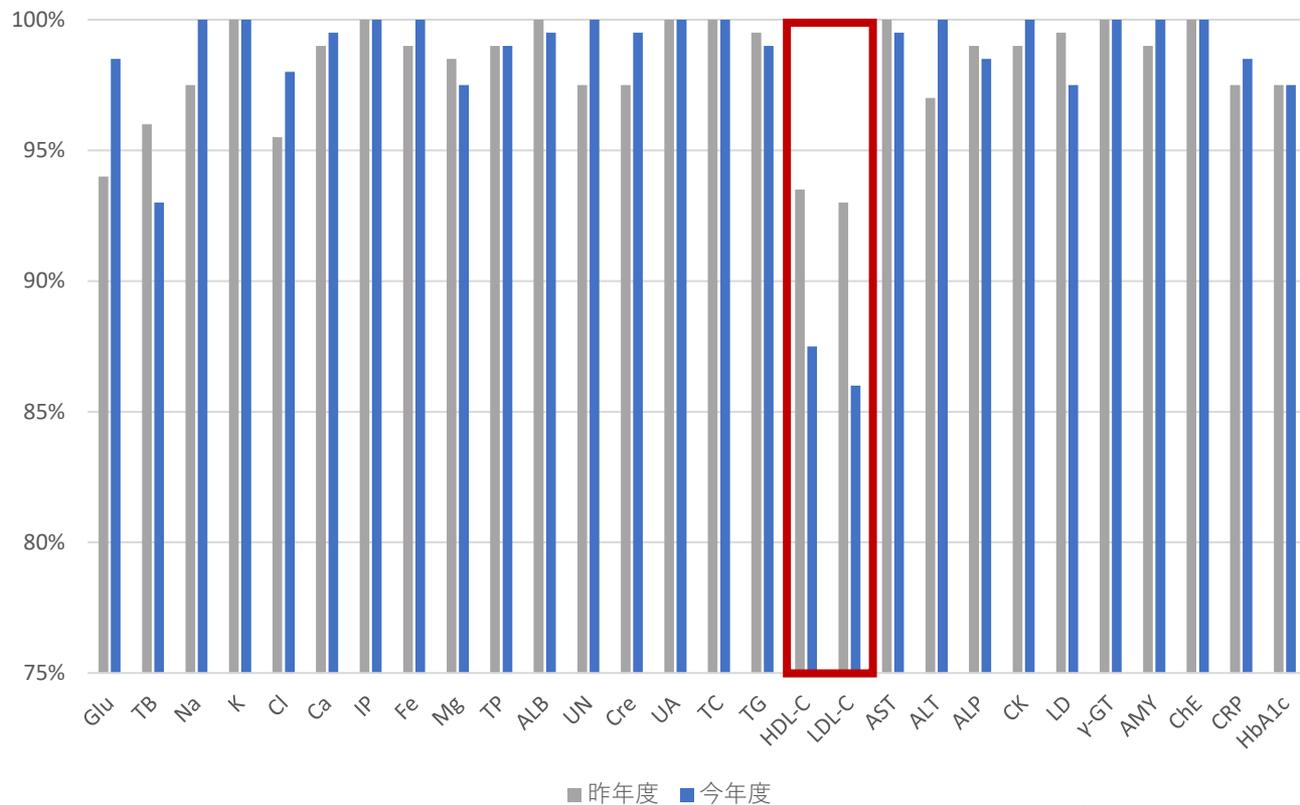
B評価を超え、その幅の1.5倍まで

D評価

C評価を超えた場合

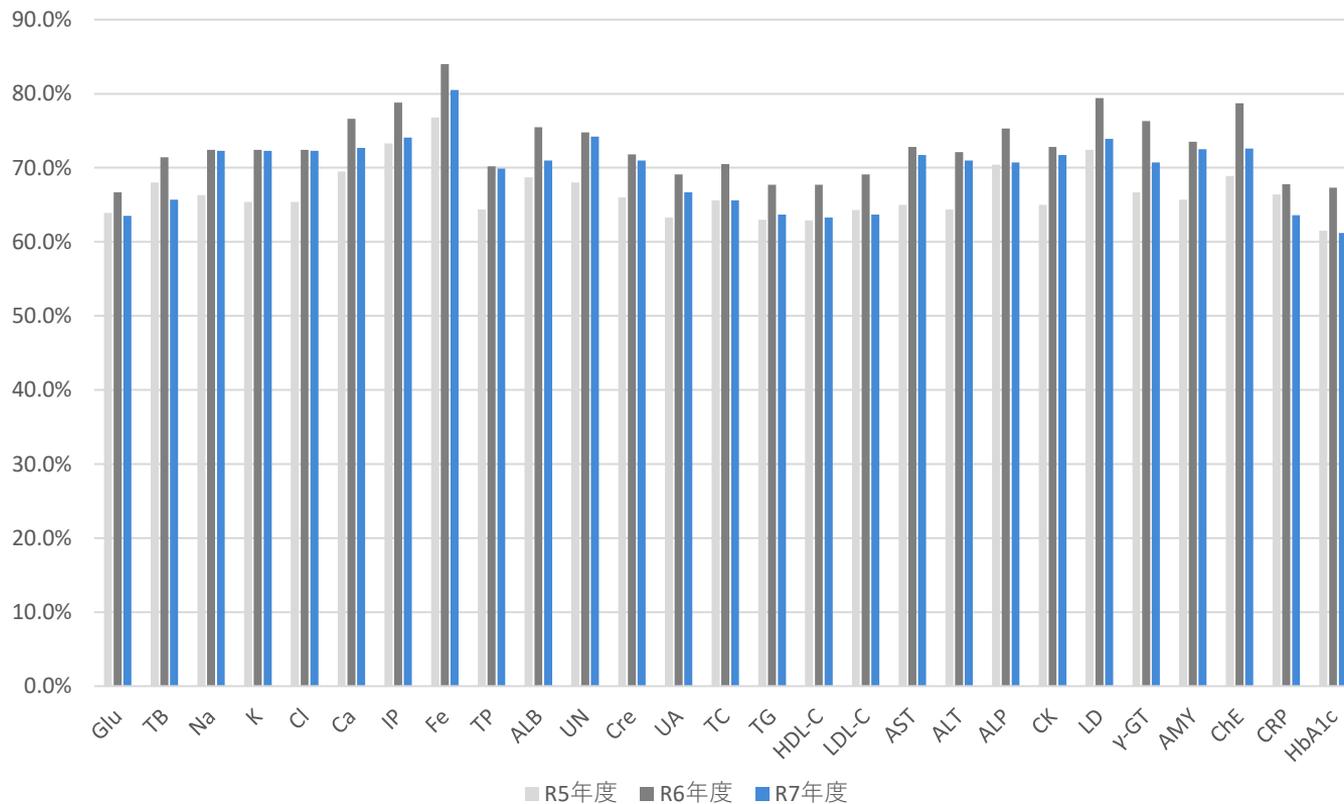


項目別評価割合(A+B評価)



※試料11,12の評価割合平均

JCCLS基準範囲



トレーサビリティの確認

日常検査に用いる試薬および検量物質は、標準化の測定体系に基づいたものを選択することで、正確な測定値の報告が可能となる



実際には測定誤差や測定機種等の条件も加味する必要があり、自施設の測定値がどの程度の誤差をもっているのか把握する必要がある

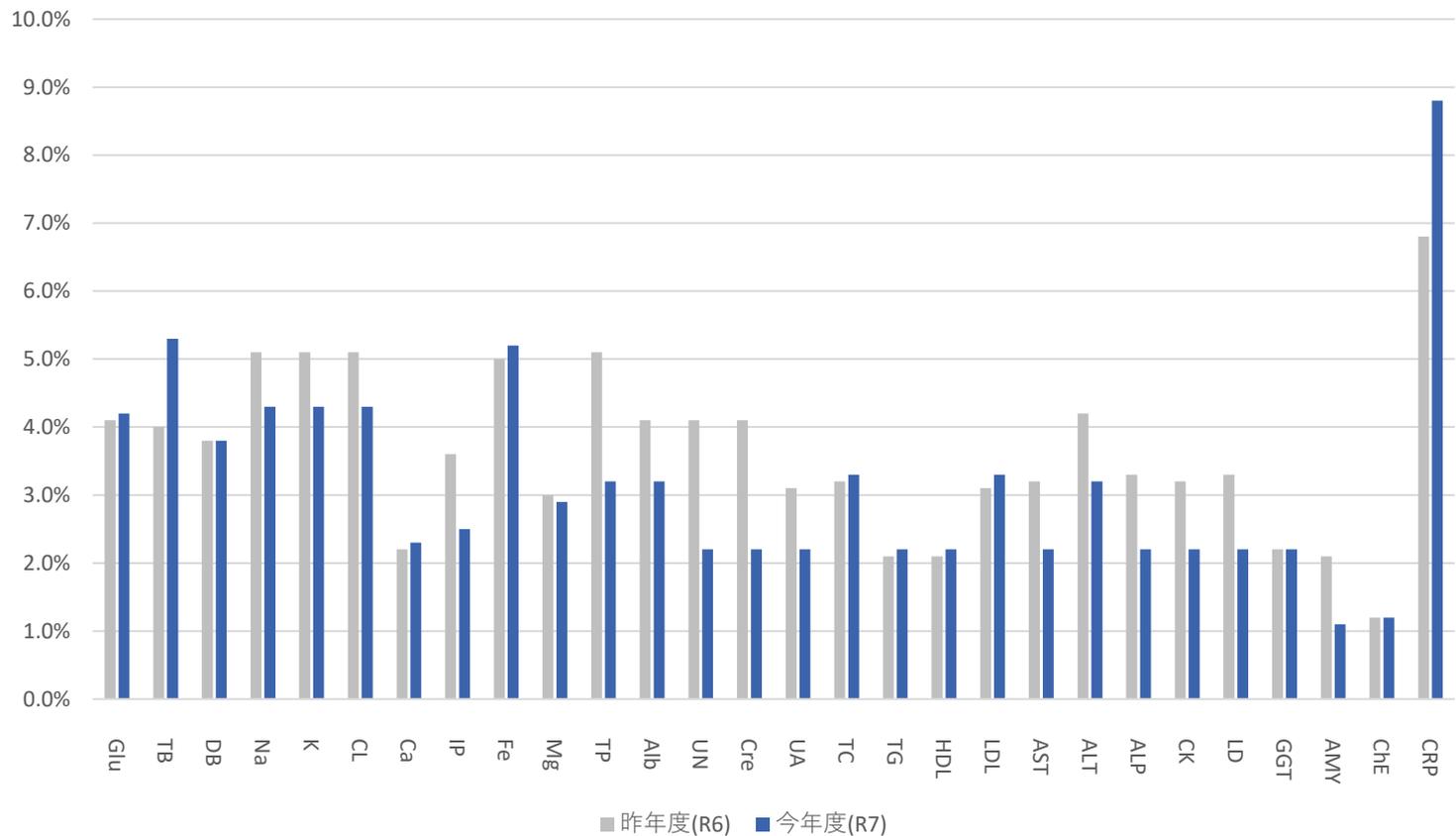
確認方法

1. 検量物質の上位の標準物質を用いて認証値と比較する
2. メーカー指定の検量物質によりキャリブレーションを実施している場合、これをサンプルとして測定する

毎日行う必要はないが、定期的な計画に基づき実施



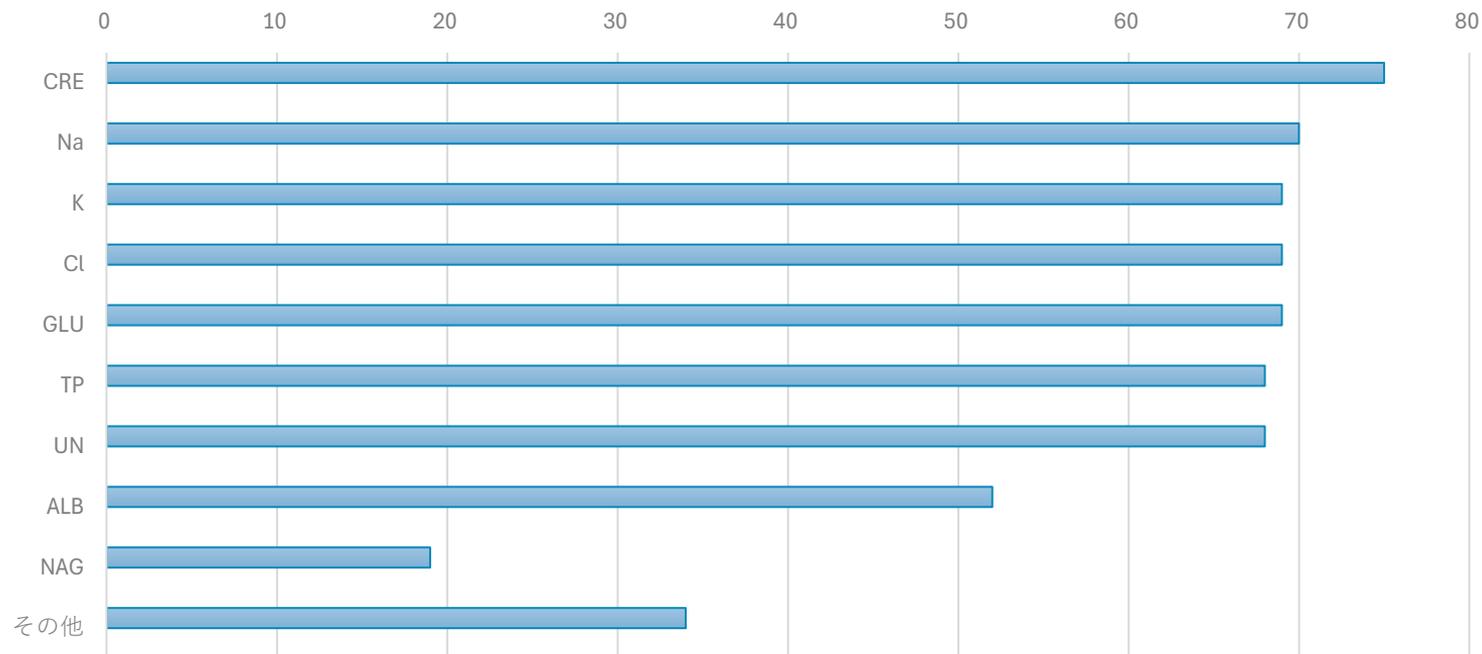
トレーサビリティーの未実施率



アンケート

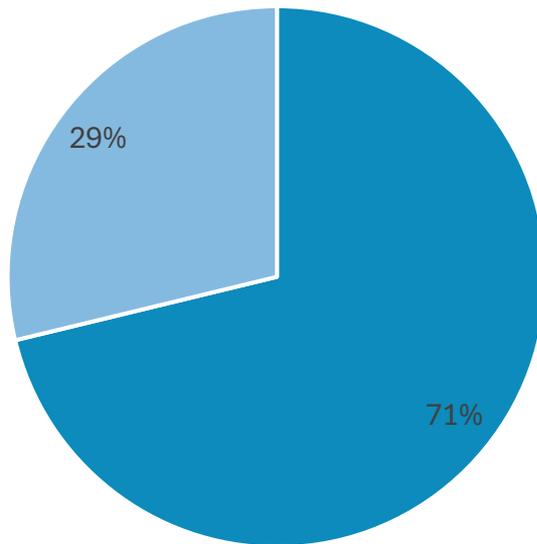
院内での尿生化学の測定項目を教えてください（複数回答可）

（施設）



アンケート

尿生化学のサーベイがあれば参加したいでしょうか (n = 73)



■ はい ■ いいえ



◇ドライケミストリー法の評価

●採用メーカー●

富士フイルム 15 施設（昨年度15施設）

オーソ 1 施設（昨年度 1施設）

●評価方法●

目標値 : ウェット法に準ずる（一括評価以外の項目に関しては、ドライケミストリー法の平均値）

評価幅 : A評価 → ウェット法同様

B、C評価 → ドライケミストリー法専用評価幅（例年同様）

◇ドライケミストリー法の評価

本調査の目的

施設間差是正に加え、自施設の測定値分布を知っていただくこと

2023年度からの評価方法

ウェット法で一括評価の項目は、原則ドライケミストリー法でも一括評価とする

問題点

- ・項目により測定原理の違いや標準化対応試薬などが整備されていないことが原因で、ウェット法と結果が乖離し、C評価やD評価が増える可能性がある
- ・絶対評価と相対評価（SDI）に乖離が生じる可能性がある

対応

- ・SDIを確認し、peerグループの平均と乖離していない場合は、是正は必要ないと考えられる
- ・県内の他施設と測定値の乖離があることを把握していただきたい



◇まとめ

- ・愛知県内全体の標準化を推進する目的で精度管理調査を実施した。
- ・全項目について、CV(%)など例年と同水準であった。
- ・トレーサビリティの確認の実施率は年々増加傾向である。



ご清聴ありがとうございました

